

# 東条川疏水 関心高める

議を構成する県や小野、加東市、各種団体の代表ら約110人が参加。総会に続き、流域でのさまざまな活動を発表し、同疏水への関心を高めた。(杉山雅崇)

「全国疏水百選」に選ばれている「東条川疏水」を考えるシンポジウムが加東市下滝野の同市地域交流センターで開かれた。東条川疏水ネットワーク博物館会

## 加東でシンポ、流域での活動発表



東条川疏水についての発表が続いたシンポジウム＝加東市下滝野

東条川疏水は鴨川ダム(加東市)を主な水源とする水路網。加東市、小野市、三木市の農地に農業用水を送り、水道水としても利用

を推進。次世代への継承に力を入れている。鴨川ダムが完成した11月23日を「東条川疏水の日」と定めている。同日に開かれたシンポジウムでは、小野市の小野小学校で疏水学習を推進している内藤翔太教諭が登壇し、学習内容や子どもたちの反応について講演した。

ダムと水路の見学や農家らによる出前授業などにより、児童の疏水に対する関心が高まったことを報告。「児童は現地学習で、級友と感動を共有しながら地域の歴史について学ぶ。貴重な機会となっている授業を今後も続けたい」などと話した。

また、大阪大COデザインセンターの松本文子特任助教は、自身が主導した疏水周辺を巡る「アートツアー」の活動を紹介。SNS(会員制交流サイト)を活用した市民参加型の写真・動画コンテストの実施などで、活性化に取り組んでいることを発表した。

小野小教諭 「地域史学ぶ貴重な機会」